

# 血圧自動記録で転記ミス防止

## マクニカ AI解析の質向上も

半導体、ネットワークのトータルサービスやソリューションを提供するマクニカ（横浜市）は、開発する見守りサービス「アテンティブコネク」にオムロンヘルスケア（京都府向日市）の通信機能付き血圧計との連携を3月から開始している。スマートフォンやタブレット端末に自動で記録作業を行うことが可能となり、転記ミス防止や業務効率化が見込めるという。

アテンティブコネクトはイスラエルの医療用ベッドセンサーメーカーであるアリーセンスのセンサーと組み合わせ使用する。ベッド上の利用者の心拍、呼吸、体動を検知するセンサー部、セン

サーが取得したバイタルデータを処理して離床の早期予測、呼吸・心拍の突発的な異常等を予測するクラウド、異常と対処方法を知覚するユーザーインタフェースで構成。今回のオムロンヘルスケアとの連携では、同社の血圧測定器で測定したデータをアテンティブコネクにフルタイムで共有し、血圧データをクラ

## オムロンと連携



▲Bluetooth経由で自動取得

ウドに保管。グラフやスプレッドシートに変換することが可能。後藤洋平「プロダクトマ

ネージャーは「血圧測定は介護現場で毎日行うルーティン作業になりませんが、現場での手作業では誤入力や記載ミス発生の恐れがあります。自動記録にすることで現場の業務効率化を達成したい」と語った。また、記録の効率化だけでなく、既に本サービスと共に提供しているアリーセンスのベッドセンサー「ヌーミー」で取得した心拍や呼吸、睡眠の質データに、今回の血圧データを追加することで、利用者の健康状態のAI解析・アドバイスの質を高めることやケアサービスの効果測定も客観的に自動化することなどが可能となる。「今後は血圧以外のデータも自動で取れるように設定していきたい」（後藤洋平）